



落合陽一 × 日本フィル プロジェクト VOL.5

醸化する音楽会

2021 **8.11** WED 18:20 OPEN 19:00 START

サントリーホール

醸化する音楽会

SOUND OF DIGITAL FERMENTATION

このプロジェクトを通じて、オーケストラの持つ質量について考え続けて早5回目となる。デジタルのもたらす新しい自然、それによる原始的な共感覚化、感覚の変換、音と光と身体性のシナスタジア。耳だけでない可能性をいつも最高のチームとともに探している。

本年度コロナ禍によってそれぞれの地域に分断された身体性のことを考えていた。分断によって気がついたもの。それは我々が土着の文化の中で継承されたDNAのようなものであり、それぞれの文化圏における土着の発酵性から生まれる新しい可能性である。

今我々の周囲にあるもの、そして今我々から距離があるものについて考えたい。東洋的美的感覚と西洋的美的感覚の対比構造、その中にある発酵の意匠の違いに目を向け、成長の限界を超えて、持続可能性との対話に入った今、かつて高度経済成長期にあった科学技術と人間性の調和の夢を反芻する。

電子的に記録された1964年の鐘の響きはこの時代にどう鳴り響くのだろうか。5回目のオーケストラ、土着性・民藝性。この時代に醸し出される新しい自然の風景を、新しい感覚とともに切り拓き、深化して行きたい。

主催・企画・制作：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

助成：令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト、文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



協力：株式会社エモハウス、WOW、TBWA\HAKUHODO、株式会社プリズム、森ビル株式会社

協賛：旭酒造株式会社、小川香料株式会社、春日井製菓株式会社、株式会社セイビ堂（50音順）

感染防止にご協力をお願いいたします

- スタッフはマスクやフェイスシールドを着用します。また、小声で対応させていただきます。
- 入場時の手指消毒、手洗いをお願いいたします。
- ホール内ではマスクを着用し、周囲のお客様への配慮をお願いいたします。
- 開演前はお席でお過ごしください。また時差退場へのご協力をお願いいたします。
- 最低限の水分補給を除き、会場ロビーでの飲食はお控えください。（ホール内は飲食禁止です）
- ブラボー等掛け声はお控えください。ホール内では大声での会話を避けるようご協力をお願いいたします。
- 出演者へのプレゼント（お手紙・お花などを含む）、面会、楽屋入り待ち、出待ち等とはご遠慮ください。
- チケットご購入者と演奏会ご来場者のお名前が異なる場合は、ご来場者のご住所、お名前、電話番号を弊団までお知らせください。
- 万が一感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様のお名前と連絡先を提供する可能性があります。
- 新型コロナウイルス接触アプリ（COCOA）等通知アプリの利用をお勧めいたします。
- 終演後は、できる限り直接ご帰宅頂くようお願いいたします。

黛敏郎：オリンピック・カンパノロジー（テーマ音楽、音源提供：NHK）

MAYUZUMI Toshiro: Olympic Campanology (Courtesy of NHK)

伊福部昭：土俗的三連画

IFUKUBE Akira: Triptyque Aborigène

協力：渡辺かよ・西山知花（阿寒湖アイヌシアター「イコロ」）

和田薫：《交響曲 瀬祭～磨 migaki ～》第2楽章“発酵”

WADA Kaoru: DASSAI SYMPHONY MIGAKI, Second movement -FERMENTATION-

休憩 intermission

J.シュトラウス二世：シャンパン・ポルカ

Johann STRAUSS II: Champagne Polka, op. 211

バルトーク：ルーマニア民俗舞曲

BARTOK Bela: Romanian Folk Dances, Sz.56

ペルト：カントゥスーベンジャミン・ブリテンへの哀悼歌

Arvo PÄRT: Cantus in memoriam Benjamin Britten

ムソルグスキー（ラヴェル編）：

組曲《展覧会の絵》より「バーバ・ヤガー～キエフの大門」

Modest MUSSORGSKY (arr. RAVEL):

Baba Yaga & The Great Gate of Kiev, from Symphonic Suite “Pictures at an Exhibition”

演出・監修：落合 陽一

指揮：海老原 光

映像の奏者：WOW

進行アシスタント：江原 陽子

演奏：日本フィルハーモニー交響楽団

コンサートマスター：田野倉 雅秋 [日本フィル・コンサートマスター]

ゲスト・ソロ・チェロ：門脇 大樹



プロジェクトTwitter
@ochyaijapanphil

お客様へのお願い

演奏中は、着信音、アラーム、パイプレーション等、音の出るものはお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音や話し声で他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。録音、録画、写真撮影は禁止されております。



© 蛸川実花

演出・監修: **落合陽一** Director: OCHIAI Yoichi

メディアアーティスト。1987年生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了(学際情報学府初の早期修了)、博士(学際情報学)。筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター センター長、准教授・JST CREST xDiversityプロジェクト研究代表。2015年World Technology Award、2016年PrixArs Electronica、EUよりSTARTS Prizeを受賞。Laval Virtual Awardを2017年まで4年連続5回受賞、2019年SXSW Creative Experience ARROW Awards など多数受賞。近著として「デジタルネイチャー(PLANETS)」、「2030年の世界地図帳(SBクリエイティブ)」、写真集「質量への憧憬(amana)」。「物化する計算機自然と対峙し、質量と映像の間にある憧憬や情念を反芻する」をステートメントに、研究や芸術活動の枠を自由に越境し、探求と表現を継続している。



指揮: **海老原光** Conductor: EBIHARA Hikaru

鹿児島生まれ。鹿児島ラ・サール中学校・高等学校、東京芸術大学を卒業、同大学院修了。その後、ハンガリー国立歌劇場にて研鑽を積む。2007年ロブロ・フォン・マタチッチ国際指揮者コンクールで第3位を受賞。指揮を小林研一郎、高階正光、コヴァーチ・ヤーノシュの各氏に師事。2019年、九州シティフィルハーモニー室内合奏団首席指揮者に就任。これまでに、国内主要オーケストラを指揮し、好評を得ている。また、2012年、2015年にクロアチア放送交響楽団の定期公演(ザグレブ)に、2019年にはゲデレー交響楽団(ハンガリー)に客演し、現地で好評を博した。
(オフィシャル・ホームページ <http://www.hikaru-ebihara.jp/>)

WOW

映像の奏者: **WOW** Video Performer: WOW

東京、仙台、ロンドン、サンフランシスコに拠点を置くビジュアルデザインスタジオ。CMやコンセプト映像など、広告における多様な映像表現から、さまざまな空間におけるインスタレーション映像演出、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスのデザインまで、既存のメディアやカテゴリーにとらわれない、幅広いデザインワークをおこなっている。
(コーポレートサイト <https://www.w0w.co.jp/>)

Creative Director: 於保浩介 (OHO Kosuke)

Director: 近藤 樹 (KONDO Tatsuki)

Technical Director: 石鍋俊作 (ISHINABE Shunsaku)

Programmer: 中野雄太 (NAKANO Yuta)

Visual Designer: 曾根宏暢 (SONE Hironobu) / 松永昂史 (MATSUNAGA Takafumi) / 石井智子 (ISHII Tomoko)
蓬萊美咲 (HORAI Misaki)

Producer: 萩原 豪 (HAGIWARA Go)



進行アシスタント: **江原陽子** MC Assistant: EBARA Yoko

東京藝術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻卒業。大学在学中より4年間、NHK『うたて・ゴー』に「歌のおねえさん」としてレギュラー出演。1991年より日本フィル「夏休みコンサート」に歌と司会出演するなど、クラシックコンサートのナビゲーターとしても活躍する。どんな人にもどんな時にも音楽をと「ノーマライゼーション」の社会をつくるための福祉コンサートにも力を入れている。合唱団や俳優、子供への歌唱指導、(公財)ソルフェージュスクール、洗足学園音楽大学にて後進の指導にあたる。

《醸化する音楽会》へ向けて

海老原 光 (指揮)

コロナは全てを変えた。しかしそれはきっかけに過ぎない。我々が歴史の一部である以上、変化と進化は我々そのものである。このプロジェクトもまた、日本フィルと落合陽一とWOWの三点が自由自在に形を変えながら、音楽会の未来を嬉々として模索し続けている。オリンピックという祝祭性は1964年の黛の聴覚にとって鐘であった。鐘はまた西洋でもムソルグスキーの「キエフの大門」のように祝祭であると同時に、ベルトのように鎮魂でもある。黛の日本的なるものは伊福部で土俗的になり、土俗性はバルトクでは表現の根幹になる。それはまたムソルグスキーの「バーバ・ヤガー」の民俗的な伝説へと結びつく。翻って酒という味覚は、日本では禊祭という精神性の深さの象徴となる一方、シュトラウスのように大衆的な祝祭として鐘と表裏一体となる。全ては繋がり、共鳴し、醸化していく。あなたもまたその一部である。

近藤 樹 (WOW)

人や物事との距離感が驚くほど変容してきています。それによって、私たちの感覚はチューニングを迫られました。自然に備え持つ感覚、目で見て、耳で聴き、手で触れ、鼻で香り、舌で味わうということに改めて向き合った時、自らの中で熟成されていた土着的感性に気づかされました。それは、オーケストラを含む文化の中にも醸成されているように思います。

本公演の中で、多くの「醸化」に直面した時、そして自らの感覚と思考が開放された時、脳内にどんな景色がこだまするのでしょうか。プロジェクトチームの皆さんと共に、私たちは視覚の部分でオーケストラの醸化体験を楽しんでもらえるよう、微力ながらお力添えさせていただきます。

〈落合陽一×日本フィルプロジェクトからのお知らせ〉

■ アンケートご協力をお願い

今後のよりよい公演づくりのため、ご鑑賞いただいた皆様からのアンケートにご協力お願いいたします。



照明デザイン: 成瀬一裕

照明: ライティングカンパニーあかり組

撮影: 井村宣昭 (井村事務所)

録音: 塩澤利安 (日本コロムビア)

配信: MUSIC/SLASH

舞台監督: 井清俊博

音響コーディネーター: 高村弘幸 (アルファソリューション)

■ 黛敏郎: オリンピック・カンパノロジー

1964年10月10日、オリンピック東京大会の開会式のために作曲された電子音楽（テープ音楽）。作曲は黛敏郎（1929-1997）、制作はNHK電子音楽スタジオ。TV中継によって世界に響きわたったこの作品は、おそらく世界で一番聴かれた電子音楽の一つだろう。

「カンパノロジー」はもともと、鐘に由来する音響学の用語である。黛は1951年よりテープ音楽、電子音楽に取り組み、1959年作曲の「涅槃交響曲」の1,3,5楽章では、梵鐘の音の複雑な倍音をスペクトル解析した上で、その音をオーケストラにて再現するという手法を取った。これを黛は「カンパノロジー・エフェクト」と呼び、楽章を「カンパノロジー」と名付けている。

1964年の開会式に際し「天皇陛下がスタジアムにお姿を見せてからご着席までの約2分」のための音楽を依頼された黛は、「日本の心」をあらわすため、東大寺、高野山、知恩院、輪王寺、妙心寺、方広寺・・・といった寺院の鐘の音を採取し、その倍音から構成した音列の響きを電子的にスタジアムに響き交わしたのである。わずか2分のため音楽の最先端技術を投入した、黛とエンジニアたちの当時の気概を感じる作品。

※「倍音」:「1つの音」として聞こえる音には、基本となる周波数のほかに様々な周波数の音が含まれている。
「スペクトル」:音に含まれる倍音の構成の比率をあらわすもの。

黛敏郎による「鐘」の音の分析メモ
(提供:日本近代音楽館)



■ 伊福部昭: 土俗的三連画

独特の力強い話法を持ち、『ゴジラ』など映画音楽の分野でも活躍した作曲家、伊福部昭（1914-2006）は専門の音楽教育を受けなかった。日本人作曲家を対象としたチェレブニン賞（1935年）への応募作品「日本狂詩曲」が第1位を受賞し注目を集めたのちも、しばらくは故郷の北海道・厚岸で林務官の仕事が続いていた。「土俗的三連画」は、その仕事の合間に作曲された伊福部の初期管弦楽作品である。

現在の釧路市に生まれた伊福部は、小学生のころ音更町へ転居。町長となった父の傍らでアイヌの人々と身近に接し、アイヌの生活や文化から大きな影響を受けることとなった。「土俗的三連画」は伊福部にとって身近なアイヌの暮らし、風景、歌を芸術作品として昇華し描いたものである。

第1楽章「同郷の女達」:厚岸の女達の逞しさを表した音楽。“Tempo di JIMKUU”と速度表示が付されている。このJIMKUUとは、アイヌがアイヌ音楽のリズム・パターンを指す言葉。

第2楽章「チンベ」:現在「チンベの鼻」と呼ばれる小さな岬の冬の風景。

第3楽章「パッカイ」:アイヌの老人が酔っ払って歌い踊った曲の名。アイヌ語で「背負う」の意。

■ 和田薫:《交響曲 瀬祭～磨 migaki～》第2楽章“発酵”

“日本酒と人間が聴くための音楽”をコンセプトに2020年作曲、今年2月に初演されたばかりの“管弦楽の新酒”。「お酒に聴かせるための曲を作り、オーケストラで演奏した曲を聴かせて醸造させたお酒」という発想から、大阪のオーケストラ・日本センチュリー交響楽団と山口の蔵元・旭酒造株式会社を中心としたプロジェクトが山口出身の作曲家、和田薫（1962-）に作曲を委嘱し、音楽とお酒のマリアージュが誕生した。

曲は、「お酒に聴かせて熟成を進める楽曲」として書かれた2つの楽章（第2楽章“発酵”、第4楽章“熟成”）を軸とした全5楽章の構成。本日演奏する第2楽章“発酵”は、樽の中の日本酒の発酵をイメージしたという。ハーブの音が樽の中の発酵音を思わせる。

■ J.シュトラウス二世: シャンパン・ポルカ

オーストリア・ウィーンで作曲家、指揮者として活躍したJ.シュトラウス二世（1825-1899）は、父I世のあとを継ぎ、弟ら家族とともに、いわば家業としてワルツ、ポルカといった舞踏会の音楽に生涯を捧げた。「ワルツ王」「ウィーンのもう一人の皇帝」と呼ばれるほどの絶大な人気を誇り、当時の富豪の間では、彼を舞踏会に招き、自分のために作らせたワルツやポルカで踊ることが流行したほどである。

「シャンパン・ポルカ」は夏の避暑地の舞踏会のために作られた軽快なポルカ。曲中にはシャンパンの開栓音がコミカルに描かれ、立ち上る泡とともに過ぎすぎやかな時をあらわしているかのようだ。「音楽的冗談」と副題が付けられている。

■ バルトーク: ルーマニア民俗舞曲

作曲活動の傍ら、昆虫採集のように「民謡」を収集するフィールドワークにも力を注ぎ、「民俗音楽学の祖」と言われる作曲家バルトーク（姓）・ベーラ（名）（1889-1945）。ハンガリー出身だが、出生地は現在のルーマニア領である。1906年ごろからは盟友の作曲家コダーイ・ゾルターン（1882-1967）とともに、地域ごとに独特の文化を持つ個性豊かなルーマニア各地の民謡を採取していた。民謡を科学的に解析する態度も彼のフィールドワークの特徴で、採取した民謡によってバルトーク自身の音楽のスタイルも確立されてゆく。

「ルーマニア民俗舞曲」はこの時期に7つの短い民謡を6つの組曲としてまとめたもの。1915年ピアノ曲として発表され、のちに作曲家自身によってオーケストラに編曲された。

各曲のタイトルは以下の通り。

棒踊り/帯踊り/踏み踊り/角笛の踊り/ルーマニア風ポルカ/速い踊り（異なる2つの舞曲のメドレー）

■ ベルト: カントゥスーベンジャミン・ブリテンへの哀悼歌

エストニア出身のアルヴォ・ベルト（1935-）。前衛的な作曲手法を手掛けたのちに、「ティンティナブリ様式」と呼ばれる独自の作風を確立した。ティンティナブリとは、ラテン語の小さな鐘を意味する語から由来し、「鈴鳴らし様式」とも訳されよう。その様式で書かれた本作品は、昨年の本プロジェクトVOL.4公演で取り上げた「フラトレス」と対をなす、独特の静謐を称えた美しい作品。

類まれな純粋さを持った作曲家、ベンジャミン・ブリテン（1913-1976）へのエレジーとして1977年に完成した「カントゥス（哀悼歌の意）」は、弦楽合奏の下降する音型が形を変えて反復する中、ただ一つ加わる鐘が、この世界の「瞬」を切り取るように響く。

■ ムソルグスキー（ラヴェル編）:

組曲《展覧会の絵》より「バーバ・ヤガー～キエフの大門」

“ロシア5人組”のひとり、モデスト・ムソルグスキー（1839-1881）が残した作品の中で特に有名な組曲《展覧会の絵》は、ムソルグスキーの友人の建築士ヴィクトル・ハルトマンの遺作絵画展（1874年）の印象に基づいて作曲された。31歳の若さで逝ったこの天才建築家にして画家の展覧会に強い印象を受けたムソルグスキーは、中でも特に感銘深かった10点の絵画（油彩や水彩、衣裳デザイン、建築設計イメージ画など）を選んで組曲の標題とした。

本日取り上げる最後の2曲「バーバ・ヤガー」と「キエフの大門」は続けて演奏されるよう構成されている。「バーバ・ヤガー」はスラブの伝承民謡に由来する魔女の名前で、鶏の脚の上に立つ小屋に住んでいるとされる。「キエフの大門」ではロシア正教の鐘が高らかに響き渡り、オーケストラ全体が会場を彩る。



「キエフの大門」
ハルトマンのスケッチ
(再建設計画)

五感、解禁。

五感で音楽を楽しもう。～味覚と嗅覚のワークショップ～

協賛：旭酒造株式会社、小川香料株式会社、春日井製菓株式会社（五十音順）

「五感、解禁。」をコンセプトとする今回の音楽会では、「味覚」と「嗅覚」も取り入れた、全く新しい音楽体験の共有を試みます。

◆「聞香」ワークショップ

会場にお越しいただいた皆様には、音楽会のために特別に調合した香り3タイトルをご体験いただけます。香りはどれも、演出の落合陽一と指揮の海老原光が時間をかけてテストを重ね決定したものです。

◆味覚とのマリアージュ

「味覚」を刺激するアイテムとして、音楽会にふさわしいグミを落合陽一が選びました。

◆音楽とお酒とのマリアージュ

《交響曲 瀬祭～磨 migaki～》を聴かせて醸造した特別仕込みのお酒「交響曲 瀬祭～磨 migaki～」クラウドファンディングのご支援リターンアイテム限定でご用意いたしました（非売品、販売終了）。オンライン鑑賞の方は瀬祭を飲みながら、また会場鑑賞の方にはコンサートの余韻に浸りながら、音楽とお酒のマリアージュをお楽しみください。

同時開催 落合陽一写真展《オーケストラと質量》

8月11日(水) 17:30 Open サントリーホールブルーローズ

VOL.1《耳で聴かない音楽会®》より継続して身体性、祝祭性を追求したプロジェクトから一転、VOL.4ではコロナ禍で初めて音楽会を迎えました。4回5公演にわたる本プロジェクトの歩みを振り返る写真展です。

(展示協力：FLATLABO (株式会社アマナ))

関連展示 落合陽一 新作《醸化するモノリス》

セイビ堂屋外用LEDビジョン -SLED VISION-
(協賛：株式会社セイビ堂、協力：森ビル株式会社)

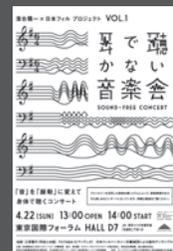
展示期間：8月7日(土)～8月11日(水)

展示場所：アーク・カラヤン広場 | アークヒルズ



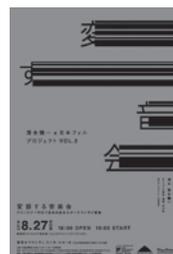
物化する計算機自然、質量への憧憬、ポストコロナで分断された風景と身体について考え続けている。身体性を強く意識させる巨大なモノリスが、物化しながらデジタルのもたらす新しい自然の風景を調停する。モノリスは人工の滝と岩、水飛沫に囲まれた都市の中の元来の自然と感応し、自身を醸化させながら新しい身体性を描き出す。

落合陽一



VOL.1 耳で聴かない音楽会

このプロジェクトの始まりは音を着る「Live Jacket」から。小編成のアンサンブルのコンサートに音を抱く「SOUND HUG」「Antenna」が登場しました。



VOL.2 変態する音楽会

映像の奏者が登場。舞台中央縦長に配置されたLEDパネル、人が動かす棒状のライトが連動して演出されました。モーションキャプチャーにより指揮者の動きが映像に反映される場面も。



VOL.3 Part1 耳で聴かない音楽会 2019

オーケストラ編で楽しむ《耳で聴かない音楽会》。クラシックのコンサートでは意外なタイプライターやサンドペーパーが登場する曲目で来場者と共に演奏しました。



VOL.3 Part2 交錯する音楽会

「アナログ×デジタル、和×洋、主体×客体、緩×急」様々な要素を交錯させた。会場全体で鳴らす鈴のパフォーマンスは異次元空間のよう。

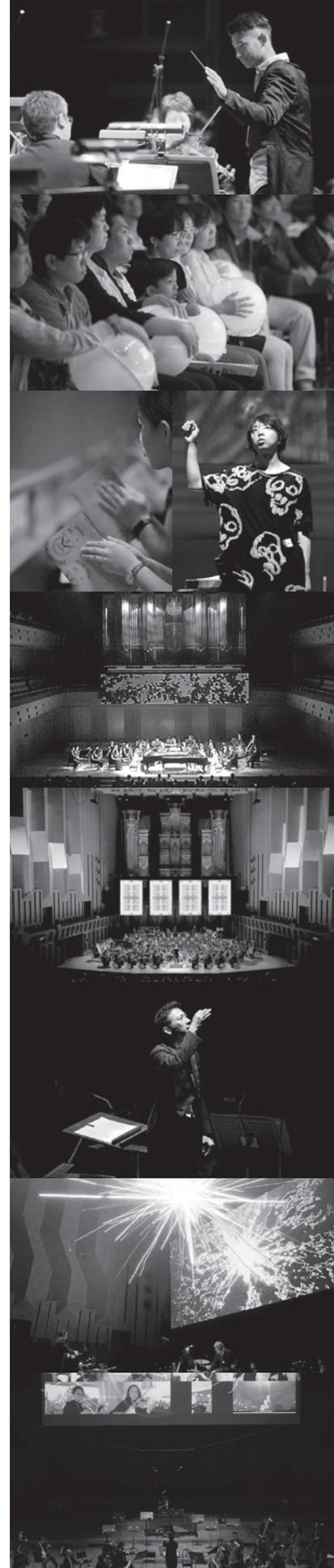


VOL.4 双生する音楽会

コロナ禍で開催すら危ぶまれ、悩んだ。「__する音楽会」というタイトルで試行錯誤を表す。配信映像には生演奏と同等の価値をもたらすためARが使われた。また海外の演奏者にビデオ通話で参加してもらった初の試みも。

公演のダイジェスト映像がYouTubeでご覧いただけます。▶▶▶ YouTube (JapanphilMovie)

写真：山口敦 (VOL.3 Part2以外)、平舘平 (VOL.3 Part2)



クラウドファンディング Readyfor からご支援を頂いた皆様 (敬称略、順不同)

明石和彦	秋山咲恵 庵雅美 三宅 正哲	桐瀬真志 伊藤知晃 hakunikeru	まのこ団 柴田あやか 平川陽一	勝岡真美 高松健人、井上優里佳 石田裕子 KOJI UENO
小曾戸卓行	NORIKO KUJIRAOKA Yusuke Suzuki	佐野創也 Fumihiko	荒井 駿行 寺谷公輔	中原安篤 大林 知央
月原昌子	曾我健二郎 大江康子・大江佑佳	umi-mori 清水大介	中村浩志 谷口裕子	小川加恵 ダンブー
Minor	中西 可奈 金谷道雄・真弓	倉澤弘明 毛藤圭祐	高橋なおや TAKA AKI GOTO	伊藤美由貴 Naoko Tsuji
新倉啓介	大森千春 H.Fujimoto	Hiroaki Kato 大村武尊	Yukako Goto 新井 拓海	奥田将史 多根由希絵
梅津章一	伊予柑 岡本憲明 (noel)	知尋 吉田恵二期	山口彩乃 たくあん	Kiriko Shibayama 早川智子
寺子屋楠	上田たきび 上川路 文哉	土屋 智 石原新 佐々木茉唯	手柴 孝太 白井 悠太郎	Shuying Song 古川保彦
Naoko Takahashi	Elena S. 肥田 康平	橋本梓龍 隅山侑衣子	飯沼天空 naocoY	坂野嘉昭 Keisuke Omori
高畑賢一朗	秋葉芳江 飯田あずみ	藤原裕子 戸松和香子	神山 芳寛 たにー	多田友子 mitsuko ASPJ
きいくんママ	星 ふき子 佐々木晃大	shinji.i 後藤僚介	横田 朋子 成田智哉	Mark 秋葉 芳
知久 久利子	Sanae Seto akutsu saki	ZAK & DOY 吉井敬子	川合祐子 Chiaki.S	大島節代 棚橋早苗
宮地智裕	shima 春日井大介	murase yuka 森下友喜 森下太翔	立川裕也 木村健二	細田良子 石塚辰郎
入部友太	リョウスケ やまうちまきこ	takuto yoshino 平野友市郎	西井カツユキ takamura keita	江原多恵子 田中絵里
山谷崇文	三宅竜太郎 船戸賢一	Kanyou SOU どいこ	brightwaltz 柴山 渚	mark06 黒神颯也
白熊可奈	稲田丈晃 奥村 隆史	Nagi 竹園翔大	藤村宏樹 寺島 稔	Takuma Kohara ぬかさん
内藤由香	茅本千恵 佐橋喬美	神藤 駿介 みか	川西 英明 菅澤侑也	青木 伸澄 中野愛理
SakuRa Sayaka	保科真祐 戸高美夏	塚原あけみ ちく くりこ	きなかえる 大西 隼	中野愛理 根上陽子
najimino 株式会社	佐藤 賢弘 Ryuji Suzuki	高瀬タカ子 河村千登世	森有彌 高橋 知孝	kaji bananayamamoto
Akemi Shirakura	道 陽子 chrofi	宗 神子 平田 憲穂	さくらや馬場加奈子 船場 ひさお	澤井知樹 Maiko Kiyohara
高木謙二	小林 祐輔 相原和子	勝又 智子 金内拓海	白石菜奈美 / 菊池薫 中嶋一統	ken 大津良裕
MEGUMI SUJINO	大谷暢明 MIZUNO HIROKO	田中 秀人 タカツマサノリ	深澤涼平 たぬましのぶ	深澤涼平 Yu Ame
Atsushi SUGANO	村上市 悠こ 益田 緑	辻昭博 Mami Sakoda	板野 緑 / 永井 翠 Ryo HASEGAWA	篠原照比古 篠原照比古
氏家海斗	吉村悠希 松田和晋	ayako m. Eriko Matsuyama	秋山 裕俊 武石ひさ子、武石真里	夏住 鉄一 小田 康介
宇賀神素子	小川典良 MIZUNO HIROKO	山下民藝館 豊川真規子	瀨上莉玖 郡山 裕子	華表綾之介 華表香奈 Zakky38
松本いずみ	小松弘輝 t.matsumura	奥中章人 (美術家 / あおいおあ) 池辺エリカ / 伊藤加奈 / 大畑桃夏	藤原 光 鈴木優介	○高山智仁 成澤美紀
藤井聡史	中山慎也 のんのん	ささやかですが応援させていただきます! Kazuya Morishita (Cue bank)	○信末碩才 原川翔太郎	☆丸山 勉 村中美菜
Naoya Takahashi	小泉結子	Chubachi yuka.h	ソロ・トランベット ソロ・トランベット	ホルン 伊藤恒男
橋本良美		岩田武宏 川村 洋子	菅原 光 鈴木優介	伊藤恒男 宇田紀夫
五十嵐正貢		見玉 務 ゆきあ	○高山智仁 成澤美紀	○信末碩才 原川翔太郎
鈴木 貴哉			○神尾あずさ 川口 貴	☆丸山 勉 村中美菜
戸部 渉			末廣紗弓 ○竹内 弦	ホルン 伊藤雄太
荒井叙哉			竹歳夏鈴 豊田早織	トロンボーン 伊藤雄太
入部 直之			山田千秋	伊波 睦 ○岸良開城
Aiko MORISUGI				トロンボーン 伊藤雄太
ズームバック×オチアイ編集部				伊波 睦 ○岸良開城
阿部修英				伊波 睦 ○岸良開城



公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

1956年創立。創立指揮者渡邊暁雄。60年を超える歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、「オーケストラ・コンサート」、「リージョナル・アクティビティ」、「エデュケーション・プログラム」という三つの柱で活動を行っている。首席指揮者ピエタリ・インキネン、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行い、「音楽を通して文化を発信」している。2011年4月より、東日本大震災の被災地支援活動「被災地に音楽を」を開始。2021年6月末までに300公演を数え、現在も継続している。BS朝日毎週水曜夜『Welcome クラシック』出演中。

(オフィシャル・ウェブサイト <https://www.japanphil.or.jp>)

- 創立指揮者 / 渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者 / 小林研一郎
- 名誉指揮者 / ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者 / ジェームズ・ロッドホラン
- 客員首席指揮者 / ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者 / ピエタリ・インキネン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問 / アレクサンドル・ラザレフ
- 正指揮者 / 山田和樹



ソロ・コンサートマスター

木野雅之
扇谷泰朋

コンサートマスター

田野倉雅秋

アシスタント・コンサートマスター

千葉清加

第1ヴァイオリン

太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和
榊 渚
佐藤駿一郎
田村昭博
中谷郁子
西村優子
平井幸子
本田純一
町田 匡

第2ヴァイオリン

遠藤直子
大貫聖子
岡田紗弓
加藤祐一
○神尾あずさ
川口 貴
末廣紗弓
○竹内 弦
竹歳夏鈴
豊田早織
山田千秋

ヴァイオリン

☆安達真理
小俣由佳
小中澤基道
児仁井かおり
高橋智史
中川裕美子
中溝とも子
松澤雅奈
○デイヴィッド・メイソン

ソロ・チェロ

菊地知也

チェロ

石崎美雨
伊堂寺 聡
江原 望
大澤哲弥
久保公人
山田智樹
横山 桂

コントラバス

菅原 光
鈴木優介
○高山智仁
成澤美紀
宮坂典幸
山口雅之

フルート

難波 薫
○真鍋恵子

オーボエ

佐竹真登
○杉原由希子
○松岡裕雅
クラリネット
○伊藤寛隆
○楠木 慶
照沼夢輝
堂面宏起

ファゴット

大内秀介
○鈴木一志
○田吉佑久子

ホルン

伊藤恒男
宇田紀夫
○信末碩才
原川翔太郎
☆丸山 勉
村中美菜

ソロ・トランベット

○トランベット
○トランベット

トランベット

中里州宏
中務朋子
橋本 洋
星野 究

トロンボーン

伊藤雄太
伊波 睦
○岸良開城

バス・トロンボーン

中根幹太

テューバ

柳生和夫

ティンパニ

○エリック・バケラ

パーカッション

大河原 渉
福島喜裕

ハープ

松井久子

楽団長

中根幹太

チーフステージマネージャー

阿部紋子

チーフインスペクター

宇田紀夫

インスペクター

佐藤駿一郎
鈴木優介
横山 桂

ライブラリアン

鬼頭さやか
杉本哲也

理事長 (代表理事)

平井俊邦

副理事長 (代表理事)

五味康昌

常務理事 (代表理事)

後藤朋俊

常務理事 (代表理事)

中根幹太

常務理事 (代表理事)

福井英次

理事

石井啓一郎

遠藤 滋

佐々木経世

田村浩章

戸所邦弘

福本ともみ

評議員会会長
加藤丈夫

評議員
青井 浩

荒崎康一郎

石塚邦雄

石村 等

稲垣 尚

内川清雄

大塚宣夫

海堀周造

梶浦卓一

河北博文

喜多崇介

木村恵司

久保田 隆

小林研一郎

島田精一

高橋和夫

津田義久

野間省伸

葉田順治

村上典史子

山口多賀幸

監事

上條貞夫

四戸孝紀

名誉顧問
熊谷直彦

島田晴雄

田邊 稔

アドバイザー・ボード

大島 剛

小網忠明

後藤 茂

武田隆男

田邊 稔

堀越作治

松本冠也

溝口文雄

コミュニケーション・ディレクター

マイケル・スベンサー

マネジメント・スタッフ

磯部一史

井原由紀

江原陽子

及川ひろか

小川紗智子

賀澤美和

柏熊由紀子

川口和宏

小須田萌

佐々木文雄

佐藤孝雄

澤田智夫

杉山綾子

高橋勇人

田中正彦

樋谷祐子

中村沙緒里

西田大輔

長谷川珠子

馬場桃子

兵 優子

藤田千明

別府一樹

益満行裕

団友

青柳哲夫

青山 均

赤堀泰江

浅井俊雄

浅見浩司

新井豊治

江藤彌子

遠藤 功

遠藤剛史

大石 修

大川内 弘

大味 修

筑 美知子

金本順子

菊谷隆行

菊田秋一

吉川利幸

木村正伸

小林俊夫

小山 清

斎藤千種

佐々木裕司

佐藤玲子

高木裕子

高木雄司

高木 洋

高倉理実

田沢 烈

田川和男

堂阪俊子

富樫高代

豊田尚生

中川二郎

永田健一

中務幸彦

奈切敏郎

畑井紀代子

平賀法子

松本克巳

松本伸二

三谷昭平

三本克郎

宮武良平

三好明子

森 茂

山下進三

山科淑子

山本辰夫

渡辺哲雄

(2021年8月1日現在)